

平成25年度 第5回 桑名市子ども・子育て会議 議事録

日 時	平成26年2月21日（金） 午後1時30分から午後3時50分ごろ
場 所	くわなメディアライヴ2階 健康教育室
出席委員	伊藤香、伊藤直和、稲垣陽子、大橋了子、奥田聖人、加藤隆明、下間賢了、高橋恵美子、津田浩二、中谷直子、野口典子（◎）、松岡典子（○）、松岡初文、水谷秀史、水谷美保、横山悦子、渡部美紀子（敬称略、五十音順） （◎：委員長、○：副委員長）
傍聴人数	1名
会議次第	<ol style="list-style-type: none">1. 開会2. 報告<ol style="list-style-type: none">（1）「桑名市次世代育成支援後期行動計画」の進捗状況（資料1）（2）子ども・子育て支援に関するヒアリング・ワークショップの実施報告④（資料2）（3）子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果について②（資料3）3. 議事<ol style="list-style-type: none">（1）桑名市子ども・子育て支援事業計画（仮称）の柱立て【グループワーク】 （資料4）4. その他5. 閉会

1. 開会

(野口委員長)

こんにちは。本日が5回目となるが、検討課題を多数抱えているので、よろしくご審議いただきたい。

※ 報告の前に、前回会議での指摘を踏まえ、「桑名市就学前施設再編実施計画」と「桑名市子ども・子育て支援事業計画」との整理について事務局説明（参考資料1・2）

(野口委員長)

皆さんの中にはこの再編実施計画についてご承知の方もいると思うが、この会議との関連性を確認するために事務局にご説明頂いた。桑名市就学前施設再編実施計画は既に成立している。一方、この子ども・子育て会議は、10年前から始まった次世代育成支援行動計画を引き継ぎながら、子ども・子育て支援を桑名市としてどうしていくか、もう少し広い枠組みでご議論いただくことを目的としている。おそらくその過程で、保育園・幼稚園といった就学前の教育・保育の施設・事業をどうしていくかも議論していくことになると思う。そして、この会議は、それだけを扱う訳ではないという認識で進めていきたい。ご意見などよろしいでしょうか。

はい、今日は先に報告事項があるが、資料1では桑名市次世代育成支援後期行動計画の進捗状況について報告を受けることになる。というのも、子ども・子育て会議が成立した経緯として、もともと進捗管理をする協議会というのが次世代育成支援行動計画の際にはあったが、別立てにしていくのは合理的ではないという観点から、子ども・子育て会議は次世代育成支援後期行動計画の進捗状況の報告を受ける機能を持っている。資料をご覧くださいわかるように、これらの事業は非常に多分野、多課から成り立っているため、事業そのものも100を超えている。それら1つ1つをご説明いただくのも難しいことと思うので、かいつまんでご報告いただくことにしたい。

2. 報告

(1) 「桑名市次世代育成支援後期行動計画」の進捗状況（資料1）

※ 資料に基づき事務局説明

(2) 子ども・子育て支援に関するヒアリング・ワークショップの実施報告④（資料2）

※ 資料に基づき事務局説明

(事務局)

ワークショップにご参加された渡部委員から一言ご感想をお願いしたい。

(渡部委員)

長島地区で開催されたワークショップの参加者は、長島地区に限らず市内各所から来ていたので良いことだと感じている。開催場所は駐車場が広く、日頃から利用している人が多いので、この場所で開催した意味があったと思っている。参加者の中にはワークショップという言葉に馴染みがない人もいたが、自分の意見が市の子育て支援に反映されることについて、参加して良かったと前向きな感想を聞くことができた。また、子育て中の今必要としている支援、解決してほしいことを多く聞いたので、この会議に反映されてより良い支援ができればと感じた。

(野口委員長)

せっかくこれだけの頻度で多くの参加者から生の声を伺っているので、アンケート調査と同様に議論する際の参考資料としてご提示いただきたいと思う。これでヒアリング・ワークショップは一段落したので、その整理に入りたいと思う。調査の際に用いる自由回答やヒアリングは結果を集約することが難しい。ただ、これまでの報告を聞いている限り、ヒアリング、ワークショップそれぞれに出てきたご意見には、それ程違いはないと感じている。子育てをしている人は若いので、情報のツールに関しては我々の世代よりもはるかにIT化が進んでおり、情報の発信方法、情報の使い方などの手法についてもきちんと取り上げていかなければならない。また、身近に相談相手がいない、困っていることをちょっと聞いてみたいというご意見が共通して出てきていた気がするので、詳細については事務局の作業を待ちたいと思う。

(3) 子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果②（資料3）

※ 資料に基づき事務局説明

(野口委員長)

事務局の報告について、ご意見、ご感想等を頂戴したい。

(松岡初文委員)

資料1の3頁の33「病児保育の充実」について、平成25年度の実績見込みは医療機関での病児保育（一か所）と医療機関での感染症対策の病児保育（一か所）と記載されているが、これは1つの医療機関で2つ実施しているのか、それとも異なる医療機関でそれぞれ実施しているのか教えてほしい。また、現在病児保育実施機関は1か所と認識しているが、そこの定員数、利用状況、稼働状況、場合によっては断る事例があるかなど、定員を上回るニーズがあるのかについて教えてほしい。

(事務局)

医療機関での病児保育および医療機関での感染症対策の病児保育は同じ医療機関で実施しているので、1か所で2つの事業をやっているとご理解いただきたい。利用状況等については、現在手元に資料がないため次回に報告させていただきたい。

(加藤委員)

数値目標が2か所ということは、新たにもう1か所の設置を目指すという理解で良いか。

(事務局)

はい。

(下間委員)

資料1の2頁の16「保育園・幼稚園・学校における食育の推進」について、平成25年度の具体的取組として「各保育所において保護者対象に給食試食会実施」とあるが、当園ではやっていない。これは公立保育所に限ってのことか。

(事務局)

はい。

(下間委員)

他の項目では公立の場合は「公立保育所では～」と記載されているので、ここでも公立という言葉に記載した方が正確だと思う。

(事務局)

今後については、私立での状況を把握した上で計画に位置付けていきたい。

(津田委員)

連日新聞等々でインフルエンザによる学級閉鎖が話題になっているが、幼稚園は基本

的に2割を目安にして設置者が学級閉鎖を決めることになっている。保育園はどのような基準で判断されているのか。

(事務局)

保育園は保護者の就労支援を目的にしているので、学級閉鎖等の対応はしていない。ただ、感染拡大につながってはいけないので、細心の注意を払いながら保育を進めているのが現状。かかり始め、病状が重い時、治りかけの時期には、相談しながら対応している。

(加藤委員)

私立には園長の采配が認められているので、私の保育園で感染症が拡大した際には閉鎖しようという考えを持っている。ただ、あくまでも保育園という位置付けなので、学校のように完全に閉鎖することは考えていない。

(下間委員)

私の園でも今回15人にまで感染者が膨らんだ。閉鎖しようかと迷ったが、保護者の就労支援という目的を鑑みて閉鎖しなかった。もし閉鎖を決定する際には、市に相談させてもらうと思う。

(野口委員長)

他にご意見等があれば、後程お聞きしたい。議事に移る。

3. 議事

(1) 桑名市子ども・子育て支援事業計画（仮称）の骨子【グループワーク】（資料4）

※ 資料に基づき事務局説明

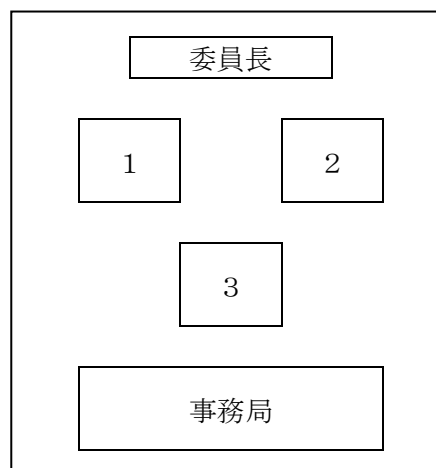
【グループワーク】

委員が車座になるよう席を配置換えし、各グループに分かれて検討を開始。

第1グループ：伊藤香、大橋了子、下間賢了、
中谷直子、水谷秀史、渡部美紀子

第2グループ：伊藤直和、奥田聖人、高橋恵美子、
松岡典子、水谷美保

第3グループ：稲垣陽子、加藤隆明、津田浩二、
松岡初文、横山悦子



【発表（意見概要）】

■ 1 グループ

<計画の柱立て>

- ・親のための子育て支援ではなく、子どものための子育て支援として、子どもが「かしくくなるために」、「楽しいと思えるために」、「おいしいと思えるために（食育の推進）」という視点が必要か。また、そういう子どもたちを見て、親の子育ての喜びにつながる。
- ・また、「保育園・幼稚園・学校ぐるみ」で1つ、地域の方々に助けていただく「地域ぐるみ」、中心は親なので「親ぐるみ」、それと「子ども」の4つの視点ではどうか。

<施策の方向性>

- ・「食育の推進」を施策の方向性に加えたい。
- ・民間保育の充実（市の財政や他市の状況からも官から民へ）。
- ・財政の無駄を省いて、その分を子ども・子育てに充実させる。
- ・核家族の増加から地域の支援の必要性。
- ・発達障害児への取組み（適切な支援をすることで社会に適応できる）。

<その他>

- ・親にこの計画が届くように分かりやすい表現の方がよい。

■ 2グループ

<基本理念>

- ・「家庭力をつける」、「地域力を育てる」、「つながる」、「思いやり」、「生きる力」の視点。

<計画の柱立て>

- ・安心・安全に子育てできる環境（親同士のつながり、親も子どもも生きる力が必要、支援を必要とする子どもへの支援）。
- ・仕事と子育ての両立。
- ・地域力をいかした子育て、多様な子育て。地域の子育て力、コミュニティ力。

<施策の方向性>

- ・子育て環境の質の向上 ・安全な環境づくり
- ・きっかけづくり、仕組みづくり

■ 3グループ

<基本理念>

- ・子育ては、親ではなく子どもの育ちを中心に考えていくことが必要ではないか。
- ・基本理念では、ある特定の部分に特化して「ここは全国有数のものを目指していく」というものの方が良いと思う。それによって全国的にも注目され、市のPRにもなるのではないかと感じる。横浜市も特化した取組みによって、全国から注目を集めた。従来桑名市は、平均点は満たしているが、いずれも100点はとれていないと感じる。
- ・今までの議論や実体験も含めて、公立と私立との連携、幼保と公立小学校との連携のなさを感ずる。

<計画の柱立て>

- ・保育、教育、医療、親、養育環境などで柱立てをしてはどうか。
- ・「全ての子どもたちに健やかな育ちを等しく保障するまちづくり」「子育てや子どもの成長に喜びや生きがいを感じることでできるまちづくり」など、国の基本指針を参照してはどうか。

<施策の方向性>

- ・次世代に借金を残さないことが何よりも大事。プラスしてだけでなく、カットすべきはカットする。そのために、例えば学童の本質を見極め、付加価値部分はカットすることも検討すべき。

(野口委員長)

ありがとうございました。グループワークを聞いた感じでは、子どもがちゃんと育ててもらわなければ困るというご意見はどのグループにも共通していた。「きちんと」「ちゃんと」という言葉をどのように置き換えていくかになるが、子どもが自分の育ちに満足できることが大事なことだと思う。親が子どもを育てることに満足するのではなく、子ども自身が育っていることに満足すること。それがたぶん安心にもつながるのだと思う。アンケート調査結果を改めてみると、日本の就労環境“時短”はどこへ行ってしまったのか。少なくともヨーロッパ並みにしようとしていたが、ヨーロッパではさらに時短が進んでいる。私は高齢者の研究領域でデンマークをフィールドにしているが、風邪をひいてゴホンゴホンとしている職員は帰宅するよう職場から追い出される。つまり、病気を押して仕事をする事自体が信じられない社会。だとすると、病気の子どもが集団の中にいなければならない状況を何故作らなければいけないのだろうか。子どもが安心して病気になれることも結構大事なことだと思う。先程、おいしいと感じるという意見があったが、とても大事なことだと思う。「食べる楽しみを持つ子どもは、生きる楽しみを知る」と私は思っている。おいしいものを食べているときの笑顔ほど、他人に幸せを感じさせるものはないと思う。おいしい、生きていて楽しいと感じられるような子育ての計画を皆で作りたいと思う。事務局と相談しながら次回までに集約していきたい。

4. その他

※ 次回の日程調整等について事務局説明

(野口委員長)

今後もグループディスカッションをしながら計画を作成していきたい。本日はこれで以上としたい。ありがとうございました。

5. 閉会

(以上)